



第一礼拝次第

メッセージ: 伊禮信義先生
ライブ配信: 郭永東牧師

前奏	540	会衆
頌栄		会衆
主の祈り		会衆
プレイズ	「みんなで賛美しよう」 「主イエス神の愛」	会衆
聖書朗読	民数記 21 章 4～9 節 (旧約聖書 p249)	司会
祈禱		司会
賛美	第二讚美歌 191	会衆
メッセージ	「主を仰ぎ見る」	牧師
祈禱		牧師
賛美	225	会衆
献金		会衆
報告		司会
頌栄	新生 672b	会衆
祝禱		郭永東牧師



第二礼拝次第

メッセージ: アドリアン・アルセ師

奏楽: 郭永東牧師

プレイズ: 「Majesty マジェスティ」
「He is Lord わが主」
「Emmanuel インマヌエル」
「Amazing Grace アメイジンググレイス」



ファミリー礼拝

聖書: 出エジプト記 32: 1～14

メッセージ: 「金の子牛」

<巻頭言>

「イエスの御姿」

伊禮信義

最近、週三日程の短時間ですけれどもある家の改築工事を手伝っています。のこぎりで木を切り金槌で釘を叩き脚立に乗って大工さながら慣れない仕事をしながら額に汗してモノ作りをする仕事の尊さを少しだけ経験しています。

聖書にはイエス様も大工の息子として仕事をしていたと御言葉に記されています。大工と聞けば筋骨隆々で丸太を抱え大きな家を建てるイメージが湧きますが当時のイスラエルの家は石やレンガで造られており大工と言っても家具やインテリア等を屋内で作る木工職人であったとも考えられます。私達が二千年前に来られたイエス様の御姿を想像する時には大柄で筋肉質、顔も美しく、誰の目からも「王の王、主の主」としてふさわしい外見を想像するのではないのでしょうか。

しかし、イザヤ書 53 章 2 節を読むと「乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のようにこの人は主の前に育った。見るべき面影はなく輝かしい風格も、好ましい容姿もない。」と記されています。従って一般的に描写されている金髪で色白、青い目のスマートな容姿ではなく、ユダヤ人ですから色黒で目も髪も黒く、もしかしたら私のように低身長であったかもしれません。そう思うと個人的には更に親しみを覚えますが、多くのユダヤ人が見た目も含めて「ユダヤ人の王」と認める事なく「十字架につけろ」と叫んだのですからその外見は、至って普通であったと考えるのが聖書的です。

私達は勿論「見えるものではなく、見えないものにこそ目を注ぐ」一人一人ではありますが、いつの日かイエス様と顔と顔を合わせる日が来るとい聖書の御言葉は必ず実現するのですから、その日を楽しみに日々の奉仕に与りたいと願います。